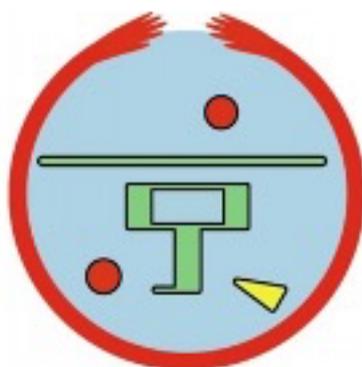


きょうまる社 最終報告書

(修正版)



きょうまる社 最終報告書

1.会社概要

企業理念：つながろう、京田辺。～縁・思い出・笑顔～

企業目的：京田辺に住む人と、京田辺の大学に通う学生とが交流する機会が少ないという点と、コロナ禍で人と交流すること自体が困難になっている点に注目し、学生ならではの視点や手法で、地域の人々をつなぐことを目的としている。

役職：

社長 江尻 樹

総務 中山 智晶

書記 福元 楓

広報 海老名 佑果

会計 中川 未翔

2.自社プロジェクトに関する活動概要

①京田辺市民まつりへの参画

②甘南備山登頂記念カードの作成

①京田辺市民まつりへの参画

2021年10月30日・31日に開催予定であった京田辺市民まつりの運営会議に参加した。京田辺市民まつりとは、「つながる 楽しむ 誇れる 京田辺」がコンセプトのお祭りで、2021年10月30日・31日に第一回のお祭りが開催予定だった。このお祭りは、京田辺市民がつながり、豊かな自然や歴史・文化と産業・交通利便性を調和させ、新たなまちの魅力を創造することで、誰もが住み続けたい「緑豊かで健康な文化田園都市」を目指している。私どもはその理念、目的に深く共感し、参加させていただくこととなった。もともと、私どもはデザインに関心があり、授業で学んでいることもあって京田辺市民まつりのロゴやTシャツのデザインを作成させていただいた。当初は、京田辺市民まつり当日は一つのブースをお借りして自社の企画を行う予定で、株式会社ラポート代表の鶴沢様のご協力のもと、イベントの裏方について学ばせていただくなど準備を進めていたのだが、新型コロナウイルスの感染による開催延期により白紙になってしまった。しかし、私どもが作成したデザインは実行委員の方々に購入していただき、第一回京田辺市民まつりが開催された折には実際に使用していただけることになった。

左から T シャツ前面ロゴ、背面ロゴ

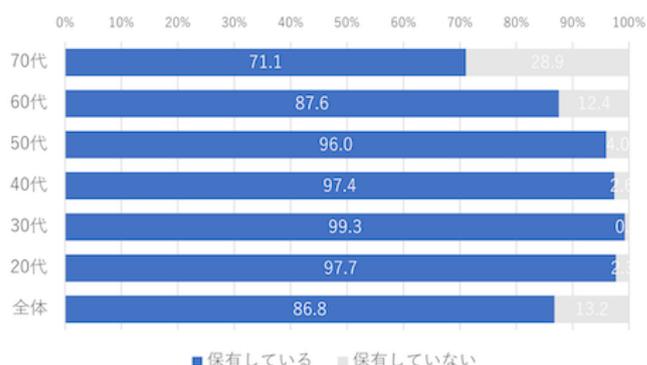


②甘南備山登頂記念カードの作成

私どもは市民まつりに参加することで、京田辺の魅力について考えた。一度京田辺の新たな魅力を探してみるという案が出たが、結果、既存の魅力を別角度から深掘りしてみることにし、次に私どもは甘南備山に着目した。甘南備山には若い世代の人たちがあまり登らないということをボランティアガイドの方から伺い、実際に自分自身でも登頂してみることで、若い世代にも魅力に気づいてもらい、登ってもらいたいと実感した。また、ここ数年流行している御朱印巡りというものがあるが、甘南備山にある神南備神社は神主が常駐していないため御朱印がない。そこで、弊社はヴァーチャルのデジタル御朱印とリアルのクリア御朱印という2種類のあたらしい御朱印をご提案させていただく。これらは甘南備山に注目してもらい、魅力の再発見・再発信を目的として考えた。なお、今回は神社オフィシャルのものではないため、見本は“甘南備山登頂記念カード”として制作している。

デジタル御朱印は神社に QR コードを設置し、それをスマートフォンで読み取って表示されるページに御朱印を載せるというように考えている。デジタルであるメリットとして、無人の寺社仏閣でも配付できる、ダウンロードすることでいつでも見返すことができる、などがある。そして何より注目していただきたい点が、画期的であるという点だ。ただ、前例が全くないわけではなく、既存のものとして、名古屋神仏具株式会社さんが行っている「スマート御朱印」というサービスが存在する。こちらは愛知県を中心に実在する寺社の御朱印をスタンプラリー形式で収集できるサービスである。しかしそれでも、関西でのデジタル御朱印は類がないものと言える。

また、日本全体のスマートフォン保有率は 86.8%あるため、多くの人がこのデジタル御朱印を利用できる(図1)。また、グラフから読み取れるように、若い世代だけでなく 60代・70代の高齢世代の保有率も7割、8割以上という統計が出ていることから、世代を超えて広く配布できることもわかる。



※上記は世帯保有を対象に集計したもの
出典：通信利用動向調査 世帯編（2020年8月末実施、2021年6月公表、有効回答数 17,354）

図 1

参考：日本のデジタル度 2021 年 10 月 デジタル庁

https://cio.go.jp/sites/default/files/uploads/documents/digital/20211010_digital_degree_02.pdf

デジタル御朱印 QR コード ↓



御朱印のみ



御朱印 + blog

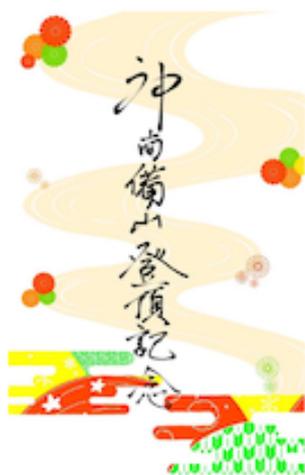
クリア御朱印はクリアシートに絵や文字が入っている御朱印として配付することを想定している。クリアシートを通して写真撮影することで写真映えし、SNS で拡散される可能性が高い。そうすることで、甘南備山を多くの人に知ってもらい、登ってもらえる機会を増やすことを目的としている。デジタルと違い、実物があることによってスマートフォンを使用していない人にも楽しんでもらえるというメリットもある。クリア御朱印は北海道の札幌諏訪神社、愛知県の別小江神社などにも存在しているが、私どもの考案したものはカードサイズで普通の御朱印のサイズより小さいため、持ち歩いたりスマートフォンのケースの間に挟んだりすることができる。また、地域のキャラクターであるキララちゃんとのコラボレーションデザインも視野に入れ、より地域に密着した、地域の魅力を伝えられるものになっている。



クリア御朱印と甘南備山からの景色

<神南備山登頂記念カード デザイン例>

※本来の字は“甘”南備山だが、少しでも御朱印に近づけるべく、あえて“神”南備山としている。



左から
ノーマル ver.
キララちゃん ver.

なお、1月13日に同志社女子大学で行われた成果報告会で、この二案をご提案させていただいた際、大変嬉しいことに京田辺市議会議員の長田様、京田辺市文化協会の山際様よりプロジェクト実現に関してお声がけいただいた。プロジェクトプランニング演習という授業自体はこの春で終わってしまうが、プロジェクト実現を目指し、社員一同これからも活動続ける所存である。

3.収支報告

収入の部

項目	内訳	金額
京田辺市民まつり	ロゴデザイン料	20000
甘南備山御朱印		0
	合計	20000

支出の部

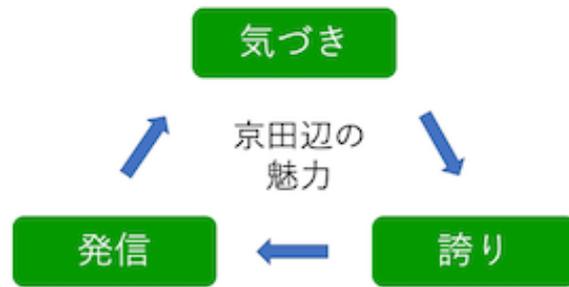
項目	内訳	金額
京田辺市民まつり	名刺カード	870
京田辺市民まつり	名刺印刷費	374
トレードフェア	大判印刷費	843
甘南備山御朱印	OHPフィルム	1086
甘南備山御朱印	インクジェット印刷費	616
	合計	3789

収入合計	20000
支出合計	3789
残高合計	16211

4.まとめ

弊社はこの1年間で、京田辺の魅力を学び、京田辺市の人たちに発信してきた。その過程で得た繋がりは私どもにとって通常では得難い重要な学びとなり糧となった。では、逆に弊社の活動は京田辺に何か利益をもたらしたのだろうか。そもそも、何をもってして京田辺に貢献したと言えるのだろうか。様々な答えがあると思うが、弊社はその一つの答えとして、住み続けたいと思える街にすることこそが貢献に繋がると定め、様々なアプローチをしてきた。その街に誇りや魅力を感じることで、これからもその地域に住み続けたいと人々は望むのではないか。今回の活動を通して、私どもは市民まつりのロゴデザイン制作という、形に残る活動を行い、実際に採用され、収入を得ることができた。これはつまり、京田辺市にとって、私どものロゴデザインが価値あるものであった、という根拠になる。神南備神社御朱印は成果発表会の時点では「ご提案」という形でとどまり、実現される見込みも定かではなかったが、あの場をお借りしてご提案させていただいたことで決して無駄にはならなかった。

これらの活動を通して、私どもは京田辺の魅力に気づき、京田辺で学んでいることに誇りを持ち、それを弊社ならではの手法で発信することができた。このサイクル(図2)は発信することによって、地域の人など周りの人にも波及していく。今回このサイクルの一端を担ったのが大学生で構成された我が社、きょうまるである。ここから始まるつながりは京田辺にとって確実に価値のあるものになる。今まで京田辺とは全く関わりがなかった人が多い大学生だからこそ、第三者による目線から新たな魅力を引き出せる。以上を踏まえ、私どもが今まで行ってきた京田辺の魅力発信は、これからの京田辺に貢献できたと言える。改めて、このようなプロジェクトに関われたこと、京田辺という地域に深く関わられたことを誇りに思う。



→他の人にも波及 図2